

## 記者懇談会の記録

日時	令和3年7月28日(水) 15:30~16:00
場所	水道庁舎 4階 会議室
記者数	9人

### 1 障がい者相談支援センターのオープンについて

(市長)

それではよろしく申し上げます。すでにプレスリリースをしているところですが、改めて、私から説明をさせていただきたいと思います。

昨日7月27日に、障がいのある方やそのご家族等がより気軽に困りごとや心配ごとを相談いただけるように、「岩見沢市障がい者相談支援センター あ〜ち」を開設いたしました。

これまでの市役所の窓口に加えて、市役所庁舎外での相談窓口の増設となります。

当センターでは、身近な相談窓口として、困りごとなどを伺い、障害福祉サービスや制度の紹介、相談者のニーズに応じた各種関係機関との連携等を行います。

社会福祉士など専任スタッフを2名配置していますので、当センターでより充実したサポートの提供を通じて、今後も引き続き、障がいのある方等が住み慣れた場所で自分らしい生活が送れるように支援してまいります。

場所は、大和1条7丁目1番地21です。開設時間は、平日の午前9時から午後5時までとしています。相談は無料ですので、障がいに関する困りごと、あるいは、不安に感じていることがあれば、対面のほか電話相談も行っておりますので、お気軽にぜひご利用いただきたいと思います。

<質疑応答>

(プレス空知)

今回市庁舎の他に大和地区に新設されたということで、その後状況にもよるのかもしれないですが、市内を考えたときに、例えば東町方面に追加で拠点を、とか、そういった展開というのは何かお考えですか。

(市長)

具体的な箇所の増設というのはこれからのことになるかと思いますが、市内でより利便性の高い地域に移るといったことは十分考えられるのかなと思います。ただ、この場所は相談支援の他に、他の福祉サービスも行っておりますので、より利用しやすい環境にはあるかなと考えています。

(プレス空知)

では、今後もしさらに増設を考えるとすれば、今回設置したのがび〜ず2のところですけど

も、もともと何かそういった機能があるところに併設するようなイメージでしょうか。

(市長)

いえ、今後の状況にもよるのですが、相談支援業務だけで移転ということも考えられるでしょうし、今回は他のサービスと併せて一体的な対応ということで、大和1条7丁目に作りましたけれども、もともと岩見沢市では「ふらっと」というNPO法人が相談支援をしていましたが解散しまして、それからは市の窓口だけだったのですが、新たな相談箇所として庁外に設けて、相談窓口を増やしたということになります。

(読売新聞)

センターはどういう資格を持つ方々がスタッフとして何人常駐しているのですか。

(市長)

社会福祉士と、それから精神保健福祉士の資格を持つ2人体制となります。先ほど電話相談と言いましたけれども、電話の他にメールでの相談を受け付けています。また必要に応じて訪問相談も行うこととしています。

## 2 北海道そらちグルメフォンド Free Ride (フリーライド) の開催について

(市長)

平成26年度から、サイクリングを通じて、南空知の各地域の特色あるグルメや景観等を体験してもらい、その後の誘客の促進にもつなげる広域的な観光振興を目的といたしまして、「北海道そらちグルメフォンド」を開催してまいりました。

昨年度は新型コロナウイルスの影響により中止となり、今年度については、参加人数を従来の1,100名から600名にすることや、グルメを個包装にして渡すなど、感染対策をしっかりと行っている開催を検討してきましたが、未だに首都圏はじめ札幌市を中心に感染者数が多くなってきていることから、多くのサイクリスト及び関係者を一カ所に集めての開催は難しいと判断をいたしまして、今年度も中止することとなりました。

しかし、次年度以降の、いわば道内最大級のサイクリングイベントにもグルメフォンドは成長している訳でございますが、それを今後にもつなげていくために、コロナ禍でも、参加者が南空知の景観とグルメを十分に楽しんでもらえるように、代替イベントとして、「北海道そらちグルメフォンド Free Ride」を行うこととなりました。

イベントの内容ですが、例年1日もしくは2日間の開催日程としていましたが、今回はロングになります。8月23日の月曜日から10月31日の日曜日までの長期間にわたって開催することで、少人数で、密を避けてサイクリングを楽しんでもらうことを考えています。

参加申し込みの必要はなく、期間中参加者自らが専用のアプリを使って、それぞれの対象スポットのお店や観光地をめぐりながら、獲得ポイント数によって、抽選で各地の特産品や、あるいは対象スポットのお店で使用可能なクーポン券、さらには、ペコママネーが当たるという事業になります。

また、参加した方が、それぞれの対象スポットのお店や、仲間と走っている画像をグルメフォンドの公式ホームページにアップしてもらうことにより、参加者自らが、南空知の観光をプロモーションしていただくことも検討しているところでございます。

期間中参加者は何度でも参加することが可能になります。広大な南空知の様々な景色やグルメを存分に楽しんでいただき、サイクリングを通じて、観光振興及び地域のお店、農産物等の生産者の方への応援にもつなげていきたいと考えています。

感染対策につきましては、専用のアプリでポイントが獲得できるようにし、接触の機会を極力減らすとともに、参加するお店での感染対策の実施、更に緊急事態宣言など往来自粛地域からの参加を見合わせるようお願いしているところでございます。

なお、今回も北海道振興機構の補助をいただいて実施しますが、今年度からは新たに、セコマさんが冠スポンサーになっていただいております。

セコマさんには、地域振興の具体的な取り組みを地域と一緒にを行うために、企業版ふるさと納税制度を活用して、グルメフォンドの開催に対し 150 万円を寄付していただくことになっています。

#### < 質疑応答 >

(プレス空知)

最後にあった、セコマさんが冠スポンサーとなって今回初めて協力していただけるということに対する市長の思いと言いますか、協力してもらったということに対してのコメントをいただければと思います。

(市長)

セコマさんは道内各地域で出店等を通じて地域振興に大変ご貢献いただいておりますが、今回企業版ふるさと納税制度を活用して、南空知のグルメフォンドにご支援をいただくということで大変嬉しく、また感謝をしているところです。今後とも、いろいろな機会を通じてさらに連携をした取り組みができればいいなと願っているところでもございます。

(プレス空知)

150 万円企業版のふるさと納税で寄付いただける予定ということですが、これは何かセレモニー的な予定はありますか。

(市長)

今のところセレモニー的な予定はないですね。冠スポンサーということで、いろいろセコマさんのスポンサー名を表示することになると思いますけども、何かセレモニーとして考えているというよりは、参加する皆さんに、セコマさんにご支援いただいていることがわかるような形で実施したいと考えています。

(北海道新聞)

細かい点で二つあるのですが、一つは、今回 2 年ぶりということで、前回のグルメフォンドが何人ぐらいの参加があったのかというのがわかればと思うのですが。

(経済部長)

前回となりますと令和元年なのですが、参加者は合計で 929 名です。

(北海道新聞)

およそそのエリア、どこから参加したかはわかりますでしょうか。

(経済部長)

令和元年度の状況で、一番多いところが札幌市を含む石狩 61.6%、その次に、岩見沢市を含む空知管内の 13.8%です。

(北海道新聞)

道外の方もいらっしゃいますか。

(経済部長)

はい。道外は 7.5%、関東が一番多くて 46 名です。道外 73 名のうち 46 名が関東です。

(北海道新聞)

もう一点、実行委員会の主催という形だと思いますが、実行委員会の構成というのは、9 市町村ですとか、あとどういったところがあるのでしょうか。

(経済部長)

グルメフォンドの実行委員長が岩見沢市の観光協会となっておりまして、9 市町の首長が大会長、副大会長となっています。あとは、各自治体の職員が協力して大会を司ることになっています。

(プレス空知)

抽選で当たる特産品ですけれども、岩見沢は何を予定していますか。1 万円相当ということなのですが。

(市長)

これはシークレットじゃないですか。お楽しみになるかと思えますけれども、やはりいろいろ知恵を絞って、それぞれ各地域からも出していただきますし、今検討を進めているところです。

(プレス空知)

今回アプリを使ってそれぞれのポイントに行って、得点を貯めていくということですが、自転車を使わないで参加するような、例えば自動 2 輪を使ったとか、自動 4 輪を使ったとか、そんなことがあってエントリーしたというような場合については何か想定していますか。

(市長)

それは実行委員会の方で、参加していただく対象スポットというのは、地域のお店であったり、あるいは地域のセコマさんであったり、それから坂バカスポットというものなのですが、そういったところのスポットで確認をしていただくようなことが必要になるかなと思いますが、

基本的には自転車に乗って長距離を走りますから、だいたい格好を見ればわかるのだと思いますけれども、そこはそれぞれのスポットのところで把握することになると思います。

### 3 その他

<質疑応答>

(HBC)

オリンピックの関係ですが、岩見沢出身の東野選手が予選リーグを突破して今日も準決勝に向けて午前中勝ちました。メダルへの期待も相当あるところですが、市長として今どのように見てらっしゃるでしょうか。

(市長)

私も今日の準々決勝ですか、あのタイの世界ランキング2位のペアに本当に白熱した大接戦で本当に一杯応援していましたけれども、東野選手には私も2年前にお会いしたことがあるのですが、とてもチャーミングで、素敵なアスリートでした。これまでオリンピックが延期になり、コロナ禍の中で練習もいろいろと制約もあったと思いますけれども、その間十分練習を積んで、今まさにその実力を十二分に発揮していただいているのだと思います。これからのメダルを懸けた試合が続きますし、ぜひ、実力を十二分に発揮すれば、結果は必ずとついてくるというふうに応援もしていますし、期待もしています。

(HBC)

岩見沢出身の方がご活躍されているのは。

(市長)

バドミントンの関係者のみならず、岩見沢市民方も大変喜んでおりますし、応援もしています。また頑張っている姿を見て、勇気づけられてもいます。大変素晴らしいと思っています。

(HBC)

ただ残念ながらちょっとこういう状況であまり大々的には、普段だとパブリックビューイングだとかも考えられて。

(市長)

そうですね。それも中止にしましたから。本来であればパブリックビューイングの予定もあったですし、また特にその東野さんの応援ということで、観戦の予定をしていた方も市内に結構いらっちゃったと思います。ここは自宅で、精一杯応援したいと思います。

(HBC)

でもこのコロナの状況がちょっと落ち着いたとなれば、何かこう市の方で、報告会のようなものはありそうでしょうか。

(市長)

コロナが落ち着けば、一度こちらの方にお越しいただけるような機会はできるのではないのかなと思っていますけども、それよりもまずは次の一戦ですね。このオリンピックで、頑張っ

しいです。

(HBC)

市長個人としてはどう思ってお覧になっていますか。

(市長)

僕は東野さんの大ファンですから。是非いい色のメダルを目指して戦ってくれると信じていますし、結果もちゃんとついてくると思っています。

(北海道新聞)

暑さがかなり続いていて、昨日は岩見沢でも初の猛暑日というのもありましたが、暑さ及び雨が降らないという部分において、今のところ岩見沢での影響ですとか、対策対応等で何か困っていることというのはありますでしょうか。

(市長)

やっぱり熱中症が心配ですので、改めて熱中症に十分気をつけていただくような、特に高齢者の方々等にですね、周知をしていきたいということで今いろいろ考えてもらっていますけれども。それから消防からの報告ですと救急搬送も何件か、決して高齢者だけではなくて、今シーズン最初に救急搬送された方が60代の方もいらしたので、決してその高齢者だけに限らないので、今、夏休みに入って子供たちも家庭で過ごすことになりますが、子供たちも高齢者まで、皆さんそれぞれ熱中症には、北海道でなぜ熱中症の心配が、という気もしないわけではありませんけれど、完全に30年平均の夏の気温は1度以上上がっていますし、特に湿気がかなり厳しいので。

これは余談ですけども、岩見沢市の国際交流支援員、CIRと言いますが、今いる彼がちょうど任期が終わって、アメリカ母国に戻るのですが、新しく来る方が白糠に赴任されていた女性の方で、昨日来られて、白糠からですから岩見沢の暑さにとてもびっくりしていましたね。それぐらい暑くなっているんですね。そこにマスクですから、ちょっとそういった意味も込めて早く庁舎が出来上がるといいなと思いますけれども。

(北海道新聞)

農業含めた産業への影響とかは何かお聞きになっていますか。

(市長)

農業はやはり7月が渇水状況なので、確か平年の月単位の降水量も6分の1とかそれぐらいのはずなので、つい最近玉ねぎ、岩見沢は道内4番目の産地になりますけども、鎌田さんという方が例年早生の品種一番早く植えられる方なのですが、その収穫が早まったということで、やはり玉肥大は必要な時期にちょっと雨が足りなかったなので、玉自体があまり大きくなりません。ただ品質はとてもいいという話でしたのと、それから小麦ですね。小麦が成熟して、普通は刈り取って乾燥機に入れて、だいたい一晩ぐらい乾燥させて、製品化して袋詰めして出荷するのが、乾燥時間が極めて短くなっているという、ですから刈り入れも早くなっているはずで、下手をすると立ったまま乾燥してしまうということで刈り入れも早くなっている状況で。今のところ水稻関係

は、ほぼ平年並みで順調に推移をしているかと思いますが、雨が少ないということでいろいろな作物でやはり影響は心配をしています。

(北海道新聞)

もう一点、桂沢を含めた水道の方は今のところはまだ様子を見ながらということでしょうか。

(市長)

水道の方は全く問題なく、桂沢のダムが水源地になりますけれども、水道関係については全く問題なく、ただ農業用水の中で、市内に幌向ダムがあるのですが、そこがやはりずいぶん水が減ってきているので、そこは制約等々も含めていろいろ考えて、もう実施しているのかもしれませんが。ただ、桂沢ダムについては今ところ、農業用水にも使えますけれども、大きな今後制約を考えなくてはならない、ということについては私はまだ報告は聞いてはいないです。

(読売新聞)

もう1ヶ月ちょっと先ですけれど、防災の日に合わせて何か今年は訓練とか予定はありますでしょうか。

(総務部長)

今年は8月21日に庁内の防災訓練の予定です。職員の避難所の設置訓練ですね。

(読売新聞)

地域を巻き込んでやるようなものは。

(総務部長)

特に予定はないです。

(市長)

例年でしたら市民参加の防災訓練を実施しているのですが、ただどうしてもコロナ禍ということで、去年も中止しましたし、去年は炊き出し訓練もやる予定だったのですけれど、やはり中止せざるを得なかった。今年もちょっと中止せざるを得ないということで、庁内の職員の防災対策本部の設置を初めとする運営訓練ですね。新しい庁舎が出来上がると今度はいざ災害時となるとその時は防災専用で使うことになる部屋もできますので、そういったときには対外的な関係機関も含めた運営訓練とか、机上訓練とか、そういった訓練を積極的に行っていきたいと思っています。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)